

2021年、
ダホメ王国の文化遺産がフランスからベナンへ返還された。
そのとき現地では、何を問いかけたのか――

© LES FILMS DU BAL - FANTA SY - ARTE FRANCE CINEMA

ダホメ

第74回ベルリン国際映画祭(2024年)金熊賞受賞

DAHOMÉY

監督 マティ・ディオップ 2024年 68分 ベナン/セネガル/フランス 日本語字幕/English subtitles

2025年度第一回

映画上映会

12/13(土) 14:00 - 16:30

会場：南山大学 G棟・G27教室

解説：吉田 憲司 (国立民族学博物館・名誉教授/前館長)

司会：高柳 ふみ (南山大学人類学博物館・学芸員)

主催：南山大学人類学博物館・南山大学人類学研究所

問合せ先：南山大学人類学博物館 〒466-8673愛知県名古屋市昭和区山里町18
Tel. 052-832-3147 E-Mail: a-museum@nanzan-u.ac.jp

〈プログラム〉

13:30 開場

14:00 趣旨説明・映画上映

15:30 吉田憲司氏による解説
質疑応答

16:30 終演

参加無料/定員200名

要参加申込み URL ↓ または QRコードから ↑

<https://app.nanzan.ac.jp/regform/regist/univ/jinruikenreception/joeikai20251213>



2021 年 11 月

ダホメ王国の王室宝物 26 点が、パリの美術館を離れ、アフリカ・ベナン共和国へ返還された。これらは 1892 年、フランス植民地軍によって持ち去られた文化財の一部である。長く「祖国」を離れていたこれらの遺産を、ベナンの人々はいかに迎えたのか。

本作は、返還のプロセスを追いながら、アボメ・カラヴィ大学の学生たちの議論を通じて、過去と現在をつなぐ視点を描き出す。文化遺産が現地社会に与える影響とは――。

ダホメ王国

17 世紀、現在のベナン共和国南部に成立したダホメ王国は、三代にわたる王朝のもと、中央集権体制と強力な軍事力を背景に発展した。首都アボメでは王宮を中心に宮廷芸術や工芸が栄え、ブードゥー教も盛んに信仰された。1892 年、フランス軍がアボメを占領し、1895 年にはダホメ王国がフランス領西アフリカに編入された。

その後、1960 年にダホメ共和国として独立を果たし、政治的変動を経て 1990 年に民主化を実現、国名をベナン共和国に改めた。こうした歴史を伝えるアボメの王宮群は、現在ユネスコの世界遺産に登録されている。



© LES FILMS DU BAL - FANTA SY - ARTE FRANCE CINEMA

監督 マティ・ディオップ

1982 年パリ生まれ。セネガルにルーツを持ち、移民やアフリカの歴史、ディアスポラの経験などを題材にした作品を手がける。2019 年に発表した長編監督作『アトランティックス』は、カンヌ国際映画祭でグランプリを受賞し、さらにアカデミー賞国際長編映画賞にもノミネートされるなど、国際的に高く評価された。ほかに『In My Room』（2020）、出演作に『35 杯のラム酒』（2008）などがある。



© LES FILMS DU BAL - FANTA SY - ARTE FRANCE CINEMA

監督／脚本／プロデューサー／キャスティング：マティ・ディオップ プロデューサー：ジュディット・ルー・レヴィ、イヴ・ロバン
作曲：ウォリー・バダルウ、ディーン・プラント 撮影監督：ジョゼフィーヌ・ドゥルイン＝ヴィヤラール 編集：ガブリエル・ゴンザレス
製作：LES FILMS DU BAL・FANTA SY